

このたび、ブエノスアイレス市において開催される被災地支援感謝の集いに出席できませんことを、大変喜ばしく思います。

今から2年半前、東日本を襲った巨大地震とそれに伴う大津波により、2万人を超える死者・行方不明者が生じ、長い時間をかけて人々が築き上げてきたふるさとが、一瞬のうちに痛々しく破壊されました。被災地の復興は着実に進められていますが、今もなお、多くの方たちが厳しい状況の中での生活を余儀なくされているのもまた事実です。

このような中で、被災直後から貴国を始めとする諸外国、そして IOC を含む数々のスポーツ団体から、様々な形で日本はご支援を頂きました。物資や義捐金だけでなく、各国の元首方からのお見舞いの言葉、駐日外国大使を始めとするたくさんの方たちが、実際に被災地に赴き、被災者と直接交流して励まして頂くなど、物心両面から多くの力を頂きました。また、多くのスポーツ選手の皆さんにも、被災地をご訪問頂き、日本の未来を担う子供たち、そして大人たちにとっても、大きな希望の光を与えて頂きました。東日本大震災にあたり、世界中の方たちから寄せられた温かいお気持ち、そしてご支援に心よりの御礼を申し上げたいと思います。

私自身、震災が起きた時、自分の研究活動のため、英国におりました。テレビやインターネットで目にする映像に言葉を失い、自分の故郷で起きていることが現実のものだとなかなか信じるできませんでした。日本で未曾有の事態が起こっている中、ロンドンでは全く変わらない日常があり、たくさんの方たちが日本で苦しい生活を強いられている中、自分はぬくぬくと何の問題もなく電気も水もガスも使える状況にいたることがもどかしく、何もできないでいる自分をふがいなく思っていました。そんな中、たまたまバスの隣の席に座った見ず知らずのおばあちゃまが、私が日本人だと気付くと「日本の状況はどうか。私は本当に日本のことを心配していて、この前募金もしてきた。私は日本のことをずっと応援しているから」と声をかけ、私の手を握って一粒の飴をくれました。

このおばあちゃまの言葉に私は涙が出るほど感動し、以来、できないことをしようとするのではなく、自分ができることを出来る範囲でしようと思えるようになりました。ロンドン滞在中出席したたくさんの方たちのチャリティイベントや募金活動を通して、本当にたくさんの方たちが遠く離れた日本のことを思い、心を寄せてくださっていることを体感し、改めて日本という国に生まれたことを誇りに思いました。被災しなかった私がこれだけ力づけられたのですから、被災された方たちにとってはどれだけ大きな励みになったことでしょう。皆さまお一人お一人の小さな小さな御志が、被災地にはとても大きな力になって届きます。これからも、被災者に1日も早く安らかな日々が戻るよう、心を寄せて頂けたら幸いです。

最後になりましたが、御列席の皆様のご健勝と、アルゼンチン共和国並びに世界各国のますますのご繁栄を願い、各国との友好親善関係がより一層発展することを祈念しながら、私よりのご挨拶といたします。